

投資信託について学ぼう！ 債券の投資信託は金利変動リスクがある

プロが分散投資し、運用

投資信託とは、複数の投資家から集められたお金を、資産運用のプロが株式や債券などに分散投資し、その成果を投資金額の割合に応じて投資家に還元する仕組みの金融商品です。このような仕組みから、個人でも少額から気軽に投資ができ、うまく活用すると将来の資産形成を効率よく行うことができます。

債券で運用している投資信託を理解するためには「債券とは何か」について理解する必要があります。前回もお話ししましたが、債券とは社会的に信用のある、例えば国や企業などが、資金を借りるために発行する借用証書です。

つまり、債券は発行する側から見たら債務(借金)で、購入者から見ると債権(資金を貸す)になります。債券もお金を貸した期間(償還期限)に応じて利息がつく点で預金に似ていますが、預金と違うのは、債券は評価されるため価格が変動するという点です。

世の中の金利の動向次第

では債券の価格はなぜ変動するのでしょうか。変動する要因の一つに、金利の変動による債券価格の変動があります。

債券と金利の関係については、厳密には面倒な計算になるのですが、簡単に説明すると、例えば、金利5%の5年後に満期(償還)がくる債券を100万円で購入したとします。この債券は、1年間で100万円×5%=5万円の利息がもらえ、5年間では、5万円×5年分の25万円の利息になるので、5年後の価値は125万円です。この

と自体は、この債券がデフォルト(破たん)しない限り変りはありません。

その後2年経過し、利息10万円は既にもりました。この時、100万円で購入した債券の3年後の価値は115万円です。これも変わりません。

ところが、仮に2年経過後の時点で、世の中の金利が上昇し6%になったとします。6%の金利の債券を買えば、3年後の価値は118万円です。そうすると、あなたが今持っている金利5%の債券を売ろうとしても、買う人は金利5%の債券をあなたから買うより、6%の債券を買ったほうが3万円得になります。このため、あなたの持っている金利5%の債券は世の中の金利が6%になったときには、100万円で売ろうとしても、誰も100万円では買ってはくれません。しかし、債券の価格自体を3万円値引いて97万円に値下げすれば、3年後の価値は同等になるわけですから、買ってくれることとなります。このような調整が債券の評価として行われるため、金利が上がると債券価格が下落するというようになるわけです。この評価は、逆に金利が下がれば債券の評価は上昇することを意味します。

このように債券の評価が金利によって変われば、債券をいろいろ購入して運用している投資信託の価格も変動することになります。このような価格の変動を「金利変動リスク」といいます。

暮らしのマネープラン
相談センター・所長
サードファイブ
ファイナンシャルプランナー

高橋 昌子



あなたの暮らしと財産を守るパートナー

■トータルマネープラン 4回/3万円

(住宅ローン、保険、年金などの総合的アドバイス)

■マイホーム資金計画・住宅ローン 4回/3万円

(無理のない予算、購入時期、最適なローン等アドバイス)

■住宅ローンの見直し 2回/1万円

(見直し・借り換えの効果、借り換えローン等アドバイス)

■生命保険の見直し 2回/5000円

(保障内容の分析、加入・見直し、商品選択等アドバイス)

■年金・老後資金プラン(退職準備) 4回/3万円

(個人年金、役立つ金融商品、退職後の各種手続き等アドバイス)

■相続に関する相談 5回/5万円

(遺産整理、相続対策、遺言書、相続手続き等のアドバイス)

※予約が必要です。

※回数は目安です。



金沢市此花町3-2 [ライブ1ビル1F] **暮らしのマネープラン相談センター**
☎076-232-2038

(株)FPサポート研究所 <http://www.fpsl.co.jp/>